

時代の転換期での ファッションと生活

ヨーロッパと日本の近代ファッションの成立とその終わりとしての今。—そして未来は？



江戸時代の「慶長小袖」小袖の裂、刺繍、鹿の子絞り、摺箔で文様を表したものが多く、(文化学園服飾博物館所蔵)



ユニクロ2013FWシルク・カンシマの新作

いまファッションは大きな転換期に差し掛かっています。これは世界の近・現代社会が歴史的な転換期にあることと深く関わっているのですが、ではその関係はどうなっているのか。やはり歴史的な大転換期だった西欧での近代市民社会の成立時、日本では江戸末期から明治までのファッションと人々の生活意識、社会との関係を改めて検討することで、ファッションと社会の今と未来について考えてみます。



【講師】.....

上間 常正氏

Tsunemasa Uema

文化学園大学 特任教授

●1972年、東京大学文学部社会学科卒、朝日新聞社入社。事件や教育などを担当し、1980年代後半からは学芸部(現・文化部)でパリやミラノなどのコレクションなどを中心にファッション取材に携わる。●2007年に文化学園大学・大学院で特任教授としてファッション論、メディア論などを担当。ジャーナリストとしての活動も続けている。



1875年ごろの英国のヴィジティング・ドレス。パッスルやペチコートで膨らみを強調し、表面にはシャーリングやタック、リボンなどの華やかな装飾。(文化学園服飾博物館所蔵)

共催：文化学園大学短期大学部

日時 = 平成27年 **11月17日** 火

16:30~18:00 受付...16:00~

会場 = 文化学園大学 A館201番教室(20階)

〒151-8523 渋谷区代々木3-22-1

参加費 = 無料 定員350名

当日直接会場へお越しください。※事前の予約は不要です。

講演ご参加の皆様には終了後に限り博物館を無料で見学いただけます。

見学 = 18:00~19:00

文化学園服飾博物館(新宿文化クイントビル1・2階)

文化学園服飾博物館展示 — 9月25日~11月25日

エピソード 服が語る
ひと・とき・こと

【お問い合わせ】..... 文化学園大学 事務局

TEL: 03(3299)2517

